
巻頭言

順天堂大学保健看護学部 順天堂保健看護研究11
P.1 (2023)



巻 頭 言

順天堂大学保健看護学部 学部長

小 池 道 明

順天堂保健看護研究第11をお届けします。

令和4年4月に閑静な住宅地の中に誕生した順天堂大学保健看護学部の学部長に拝命され、早9か月も経ちました。これまで血液内科医として臨床に力を入れて参りましたが、昨年より人生での新たなチャレンジとして未来の医療を担う若人たちの教育の現場に携わることができ、心引き締まる思いでした。前学部長の大熊先生が学生時代に可愛がっていただいた野球部の先輩というご縁もあり、おかげさまで比較的すんなりと入り込めた気がしております。

しかしながら、保健看護学部の建学の精神や教育内容、各種委員会の活動に多岐に亘る課外活動、各領域の研究内容など学ぶことが多かったです。恥ずかししながら、このたび順天堂保健看護研究への寄稿を依頼されて初めてこの雑誌を手にすることができました。順天堂保健看護研究は、本学部のバイブルのような存在で、本誌を読み解くことで順天堂大学における本学部の歩みなど基本的な概念を自らのものにできることを知りました。

看護教育を行うための、「OSCEの開発」、「地域住民(模擬患者)参加型の基礎看護実習オリエンテーションの試み」、「救急法の理論と実技におけるSAシステム(Student Assistant System)導入の試み」など、数々の取り組みが研究報告や学内活動報告として掲載され

ています。

また、「フィンランドの大学との国際共同研究」、「新人スタートアップセミナーの取り組み」「公開講座の新たな取り組み」といった各委員会の活動が理路整然と掲載されておりますことに、大きな関心を抱きました。

さらに、2017年より部に昇格した「離島研究部」の学生が執筆した「離島に住む人々の医療福祉と健康」なども興味深く読ませていただきました。このような学生からの素晴らしい投稿が益々増えてゆくことを切に願っております。

この学部には、様々な分野の専門家が在籍されており、学生の教育や委員会活動を行いながら、自分の専門分野の研究、学会発表、論文執筆を行っておりますが、専門雑誌に出す機会がなかった論文や出席した学会の報告や最新のトピックを総説として載せたり、1年生が受講している教養ゼミナールの内容などを簡単にまとめて紹介することも非常に面白い企画になると個人的には思っております。

今後もこれまで同様に活動や研究論文を掲載することにより、本誌が保健看護学部の発展に役立つことを確信するばかりです。多くの方が眼を通すことにより、令和5年を、本学部のさらなる飛躍の年にしたいと思います。